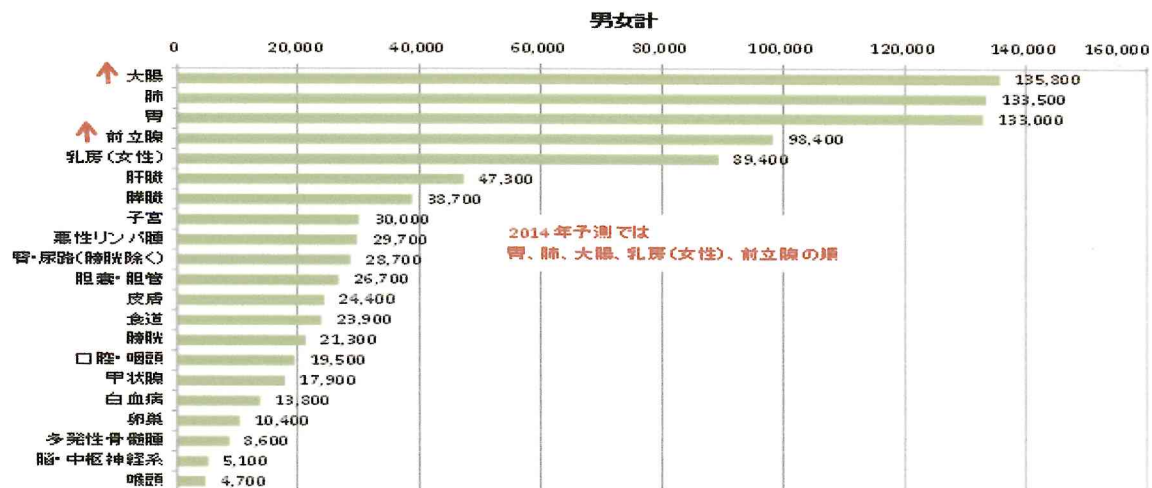


胃癌の疫学 H27.1.20 渋谷 均

2015 年度統計予測

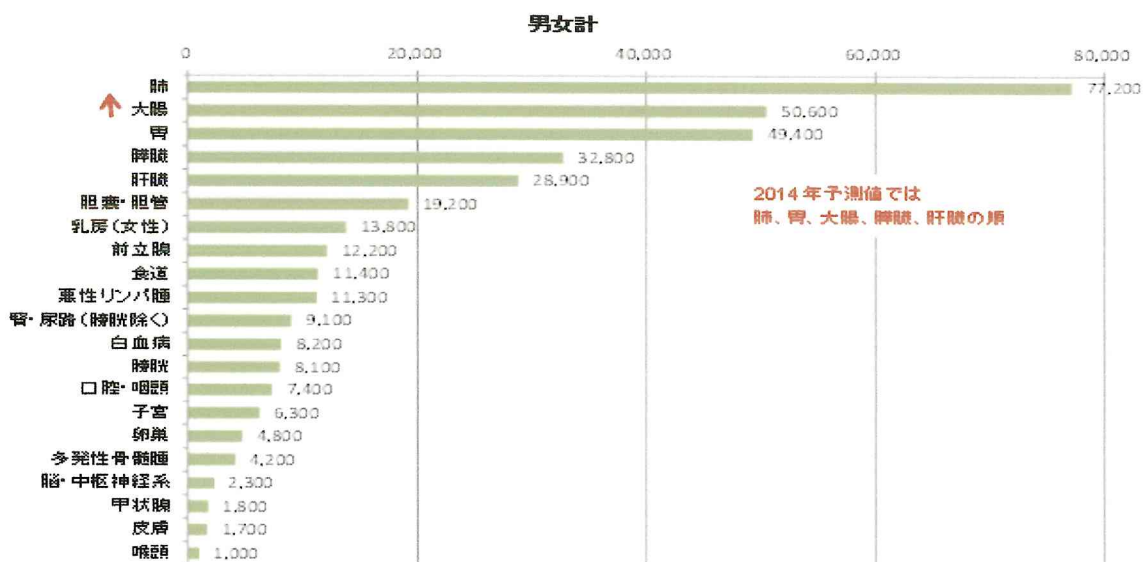
1. 罹患数（新たに癌と診断される癌の数）

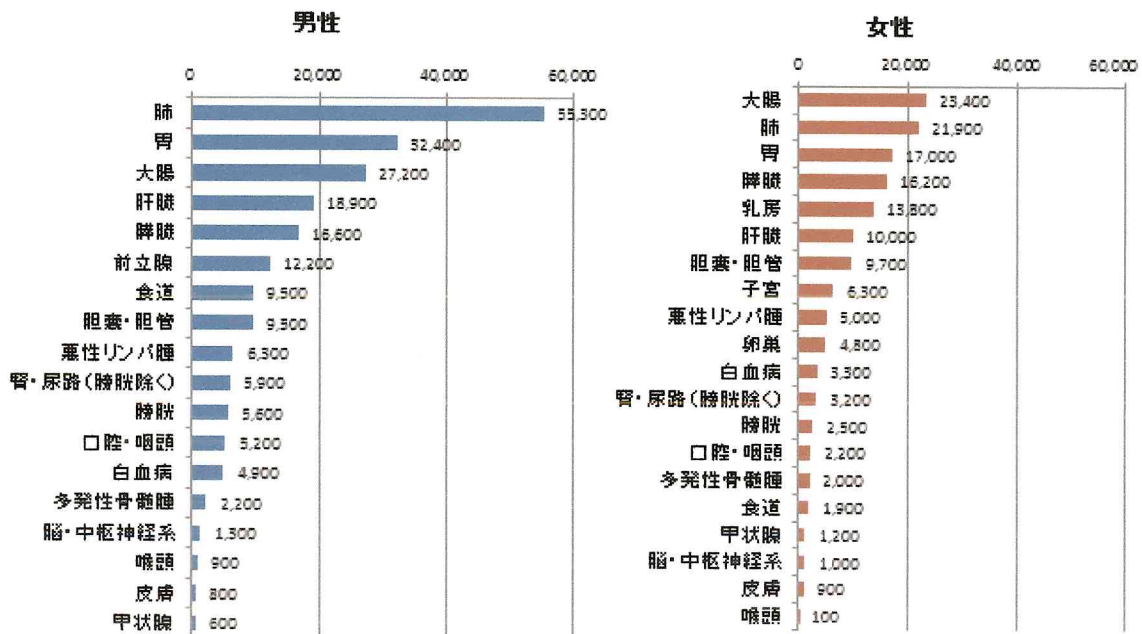
癌罹患数は、982,100 例（男性 560,300 例、女性 421,800 例）で、2014 年予測値より約 10 万例増加。高齢化と癌登録精度の向上が要因。



2. 死亡数（癌で亡くなる人の数）

癌死亡数は 370,900 人（男性 219,200 人、女性 151,700 人）で、2014 年の予測値より約 4 千人増加で大きな変化は見られない。部位別死亡数では、全体では大腸の順位が上がりましたが、男女別での順位変動はなく 2014 年と同様の傾向。





1. 都道府県別死亡率

胃癌の好発地域は日本海側の東北地方、秋田、山形、富山で、また低率な地方としては沖縄県、神奈川県、鹿児島県である。

2. 世界の国の胃癌

日本、ハンガリー、ポルトガル、イタリア、チリの順で胃癌が多い。また先進国ではアメリカ（白人）、ニュージーランド、オーストラリアの順で胃癌が少ない。

3. 日本人の胃癌の特徴は若年者に多いことが上げられる。欧米人と比較して胃の萎縮性変化を示す頻度が著明に高い。

4. 金属材料製造業、農業従事者、鉱山労働者などに高率である。

5. 疫学的因子

(1) タバコは重要な因子である。喫煙年齢が若いほど危険。

(2) 食物

1) 塩分は癌発生を助長する。

2) 緑色野菜、乳製品（牛乳）、味噌汁、緑茶は癌を抑制する。

牛乳を毎日 300ml 飲用する者の相対危険度は男性 0.76, 女性 0.67 である。

緑色野菜を毎日摂るものでは男性 1:1.16, 女性 1:1.54 であった。

4) 濃いアルコールは粘膜を痛め、糜爛を起こすので良くない。

5) 炭水化物の過剰な摂取、穀類摂取率と胃癌死亡率は正の相関がある。

8) ビタミンでは A,C,E は癌を抑制する。

6. 発癌因子

フリーラジカル(活性酸素)、ダイオキシン類、ニトロ化合物(ニトログアニジンなど)、ヘリコバクター、EBウイルス

7. 発癌物質を含む食品

魚の焼け焦げ、食品添加物。

8. 胃癌の好発年齢、性、発生部位

胃癌の好発年齢は 60 歳代、男女比は 2:1 である。

胃癌の好発部位は幽門前庭部、小弯側で、この部位は腸上皮化生の発生しやすい場所である。

9. 遺伝

一般に分化型の胃癌は環境要因に負うところが多いが、未分化型の胃癌は遺伝的背景の重要性が指摘されている。

10. 腸上皮仮生とヘリコバクター、ピロリ(グラム陰性桿菌)

ヘリコバクター、ピロリにより、胃粘膜が損傷され、細胞増殖能が亢進し、菌が作り出すアンモニア、毒素、二次的にできたサイトカインやフリーラジカルにより、遺伝子に傷がつき癌化が起きるのではないかと推定されている。ピロリ菌による感染者は 6000 万人いると推定されるが、必ずしも保菌者が癌化するわけでない。しかし、保菌者は陰性者と比べると、2.8 ~ 6.0 倍も発症率が高いと言われている。